

# つくばスポーツ大賞 2013 ノミネート者

福岡 堅樹

## ■ 目的

今年活躍したスポーツパーソンや団体を表彰することで、地域スポーツ関係者に限らず、多くの地域住民にその取り組みをPRし、スポーツコミュニティを活性化させる。また、競技成績だけでなく地道な活動や手本にすべき活動にもスポットを当て、子どもから高齢者まで、地域住民に夢と希望を与える取り組みを紹介することで、研究、教育に次ぐ「スポーツの街つくば」の構築を目指す。



福岡県で小学校からラグビーを始め、ラグビー伝統校である福岡高校で全国大会出場を果たす。高校卒業後、一年の浪人生活を乗り越え、筑波大学に入学し、ラグビー部に入部。持ち前のスピードで、部史上初となった昨年の全国大会決勝までトライを量産し続け、近年の筑波大学の躍進に貢献。昨年3月にはジュニアジャパンに選ばれ、海外遠征での活躍を評価され日本代表に招集された。11月の世界ランキング一位のニュージーランド代表との対戦では、相手チームの主将を一発で倒すタックルや、豪快なランニングで会場を大いに沸かせた。2019年に日本で開かれるラグビーW杯、2020年の東京オリンピックでの活躍を目指しながら、つくばから日本を代表するエースとして飛躍することが期待される。

染谷 弘樹



高校2年生(17歳)時に史上最年少でJFAサッカー2級審判員を取得し、2011年～2013年には、茨城強化審判員に選出、県内審判強化研修会に参加。既に、全日本少年サッカー大会全国大会や高円宮杯プレミアリーグイーストの主審を担当するなど、審判として実力を着実につけている。近い将来、W杯で笛を吹く彼の雄姿を見たい。茨城国体2019年、東京オリンピック2020年と彼の活躍の舞台は既に用意されている。1995年10月生でつくば市出身。現在北海道第一高等学校に通う高校3年生。

西機 真



アクティブつくばの設立に尽力し、つくばスポーツ探検隊やスポーツ大賞をはじめとするユニークなプログラムやイベントを企画・運営するなど、地域スポーツの発展に大きく貢献した。また、その活動は地域や競技といった垣根を越えて、日本全国、世界へと大きく進化しています。まさに、つくばから世界へ羽ばたく地域スポーツのパイオニアである。

つくば学園ロータリークラブ



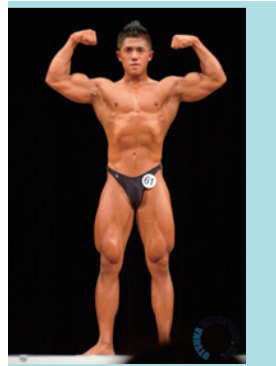
2013年11月に、新たなコンセプトのストリートダンスコンテスト「つくばから世界に発信 中学生ストリートダンスコンテスト-第一回つくばダン魂-」を開催し、つくばのダンス振興に大きく貢献した。職業奉仕とそこから広がる社会奉仕と国際親善を目的とし、世界中で連携しながら奉仕活動を行っているロータリークラブが、アンダーグラウンドなイメージのあるストリートダンスに着目し、コンテストを開催したことは、今後のストリートダンス振興にとって、大きな意味を持つものとなった。また、「出る・観る」以外に「支える」という形のダンスへの参加は、地域に根付いた文化としてのダンスの発展に大きく寄与するものであり、より多くの地域住民のダンスへの参加を期待させるものとなった。

筑波大学柔道部



第15回全日本学生柔道体重別団体優勝大会が、平成25年11月2日、3日の両日、ベイコム総合体育館(尼崎市)において開催された。この大会は、体重別7階級の7人制団体戦であり、各大学の総合力により日本一が争われる大会である。前年度準優勝の筑波大学は、決勝に進出し、東海大学と対戦した。決勝は、誰もが東海大学の優勝を疑わない状況であった。大将戦までもつれこみはしたが、最後の最後で相手の世界チャンピオンの選手を圧倒し勝利。結果、3対2となり、筑波大学が大逆転で3年ぶり3度目の日本一となった。

池口 翔ヘンリ



茗溪学園中学校高等学校のラグビー部に所属していた高校時代に、部活動の一環で筋トレをはじめたことからトレーニングに興味を持ち、20歳からボディビル競技をはじめた。今年、「第43回茨城県男子ボディビル選手権」優勝、「第25回日本ジュニアボディビル選手権大会」3位入賞など、競技をはじめてわずか2年目での快挙を成し遂げる。現在、「ボディビル日本一」を目指してトレーニングに励んでおり、恵まれた天性の素質と若き才能で、つくばの地から、チャンピオンが誕生する日は近い。

## つくばスポーツ大賞 2013 表彰式

日時 3月16日(日) 13:00～(開場/12:45)

場所 イオンモールつくば(1階特設ステージ)

- 主催 Vision ネットワークつくばスポーツ大賞2013実行委員会
- 共催 つくば市
- 後援 筑波大学 つくば市教育委員会 関彰商事株式会社 茨城新聞社 つくばコミュニティ放送 常陽リビング社
- 協力 イオンモールつくば

## F.C.Avanzare つくば



F.C.Avanzare つくばは、視覚に障害を持った選手がプレーできるように考案されたサッカー「ブラインドサッカー」のチームで、2012年、2013年と2年連続で、関東大会を優勝。過去には、日本選手権'09年～'11年まで四連覇('09年に二回開催)し、昨年(2013年6月)の日本選手権でも優勝と輝かしい成績を残す。チームは主に、筑波技術大学春日キャンパス内のグラウンドで毎週土曜日に練習している。メンバー約30名の内約半数が社会人。筑波技術大学からは、今年は8人入団した。つくば近郊に在住している選手については、木曜日にも体育館練習をしている。F.C.Avanzare つくばは、日本代表候補2選手を有し、11月に東京で行われるB1世界大会での出場・活躍が期待されている。

## SADA



2000年に大学を卒業後、なわとび普及活動を開始する。2004年には世界大会(個人フリースタイル部門)でアジア人初の銅メダルを獲得するなど、なわとび競技でも国内外の様々な大会で活躍する。フリーで活動中の現在、なわとびの普及活動の尽力するとともに、30秒おしり跳びの世界記録(103回)を樹立するなど、新しいことにも挑戦している姿は、スポーツ振興に関わる多くのものにとって良い見本である。

## Legend Tokyo TAIHEY number



2013年8月に開催された日本最大のダンス・エンターテインメント作品コンテスト「Legend Tokyo3」で、「ダンスは誰もが楽しめるもの!」をコンセプトに、親子の絆を描いた作品を出展。2年連続となる審査員賞を見事受賞した。作品の主役は、ダンス初心者のお父さんやお母さん達で、ダンス経験者の子ども達と共に、厳しい練習を経て、チーム全員で勝ち取った価値ある賞となった。ダンスが持つチカラを存分に引き出し、観る者の心を揺さぶるパフォーマンスとそのチームワークは称賛に値すると共に、「ダンスは誰もが楽しめるもの!」を大きな舞台で体現し評価されたことは、多くのダンス愛好者にとって夢と感動を与えるものとなった。

## ツクバリアンズジュニア



勝利至上主義ではなく人間的な成長を大切にクラブです。シニアチームを創部した1979年の翌年に立ち上がったジュニアチームは現在まで多数の卒業生を輩出しています。「ゆりかごから墓場まで」どの世代の人もラグビーに関係を持てるコミュニティ作り、同時にラグビー文化の素晴らしさの発信をし続けていきたいと思ひます。